

平成30年度 第1回羽生市総合教育会議 議事録

1 日 時 平成30年4月10日(火) 午後1時30分から午後2時45分まで

2 場 所 羽生市役所 2階市長公室

3 出席者

(構成員)	羽生市長	河田 晃明
	羽生市教育委員会	
	教育長	秋本 文子
	教育長職務代理者	春山 教子
	委員	柿沼 拓弥
	委員	高瀬 賢一
	委員	平野 博之

(事務局関係)	企画財務部長	飯塚 丈記
	教育委員会学校教育部長	佐藤 敏之
	教育委員会生涯学習部長	赤坂 暁美
	企画財務部企画課長	清水 昭雄
	教育委員会学校教育部	
	教育総務課長	須永 正弘

(傍聴者) 0名

4 協議事項 1) 平成30年度の教育の方針・施策・重点事業について
2) その他

5 会議内容

(開 会)

○企画財務部長(司会)

これより、平成30年度第1回羽生市総合教育会議を開催します。
本日の進行をさせていただきます企画財務部長の飯塚です。
どうぞよろしくお願いいたします。

(あいさつ)

○企画財務部長（司会）

それでは、はじめに河田市長よりあいさつ申し上げます。

○市長

(あいさつ)

(協議事項)

○企画財務部長（司会）

それでは協議に入ります前に、4月1日付で異動のあった職員もおりますので出席職員の紹介をさせていただきたいと存じます。

(佐藤学校教育部長から順番にあいさつ 職員⇒教育委員の順)

続きまして、協議事項に移らせていただきます。議長は、羽生市総合教育会議設置要綱第3条第1項により、市長を議長として進めさせていただきます。

市長、よろしく申し上げます。

○市長（議長）

それでは、本会議を主催する立場から議長を務めさせていただきます。

はじめに、1)平成30年度の教育の方針・施策・重点事業について所管部長から、説明をお願いします。

○学校教育部長

(平成30年度教育委員会グランドデザイン、平成30年度学校教育部グランドデザイン、平成30年度学力向上重点7、平成30年度重点施策に基づき説明)

○生涯学習部長

(平成30年度教育委員会グランドデザイン、平成30年度生涯学習部グランドデザインに基づき説明)

○市長（議長）

それでは、意見交換に入りたいと思います。今、説明がございました内容について、意見がございましたらよろしく願いいたします。

○春山委員

羽生市の第6次総合振興計画の中にも、子育てと教育の柱が施策の2番目に掲げられていますね。

来年度から新しい教育大綱を作ることですので、来年度に向けて、ちょっと提言を申し上げたいと思います。

子育てと教育を二つ目の大きな柱にあげていますが、その連携をしていかなければならないかなと考えます。

第一に御提案申し上げたいことは、今、家庭教育が大事だと言われていながら、うまく機能していない、むしろ家庭教育どころか、家庭が崩壊しているような実態

もある。

「学校・家庭・地域の三者協同による学校づくり」というところをうまくつなげられればと思いますがいかがですか。

○市長（議長）

今、春山委員さんから家庭教育の充実ということですが、まず生涯学習部の方からいかがですか。

○生涯学習部長

家庭教育の支援事業といたしまして、NPO 法人のキャロットさんの方をお願いして、充実させていただいているところです。今後こういった NPO 法人の方々のお力をお借りしながら、もっと充実していかなければならないと思います。

○市長（議長）

興味のある人や理解のある家庭の人はきてくれるんですけど、家庭教育が本当に必要な人、来てほしい人に来てもらえないんだよね。それらを考えていかなきゃならない。

学校教育部長の方はどうですか。

○学校教育部長

「学力アップ羽生塾」の開催地を中央・須影・三田ヶ谷の各公民館の3か所に広げます。今までは親の送迎がないと通えなかった子どもが、親の送迎なしに通えるようになることが期待できます。それによって、「貧困対策」などにも繋がるものと思っています。

また、生涯学習部とも連携していく件ですが、PTA との連携で家庭への学びについての意識啓発。各学校がそれぞれ家庭学習の手引きは作ってあるんですが、その辺を各学校ごとに研究しあって、羽生市全体として取り組めることが大事なことと思います。

○春山委員

総合振興計画の中では、2番目の柱に家庭教育の充実を掲げますね。そこをこれから充実できればいいかなと思います。

羽生市の学力向上グランドデザインの中にも家庭・地域というところがあるんですね。最近、アウトリーチ型の支援っていいですか。こちらから出かけていくしえんですが。埼玉県でも家庭学習アドバイザーっていうのができまして、こちらの方から近所のおばさんがちょっと行って、例えばご飯を作っただけながら、ちょっとこっちで宿題を見てあげる。そういうような支援の在り方があるんですね。そういうことも考えていけるといいかなと思います。

○教育長

埼玉県でも家庭学習アドバイザーっていう形が始まりまして、本市でも教育委員会を通して校長会にもお願いしています。

ぜひ、そういった形で、利用できればと思いますし、羽生市としてもチャンスの年度に入ったと思います。

今のところ PTA ともうまく連携ができていますので、家庭教育の大切についてまた更に進めていきたいと思っています。

○市長（議長）

家庭学習アドバイザーっていうのはいいですね。ただ、受け入れてくれるかどうか。能力がある子もいっぱいいるからね。

他に教育委員の方、いかがでしょうか

○柿沼委員

春山委員がおっしゃった家庭教育ってすごく大事な部分だと私も思っています。そういう部分に踏み込んでいただいて、羽生市全体の方から協力し合っているいい方向に持って行けたらいいと思います。

秋田県などは、収入も大して多くない、塾も多くない、にもかかわらず日本を代表するような成績を取っている。羽生市でもそういう流れができれば、お金をかけずに、できるんじゃないかなって思いますね。

○市長（議長）

そういう子が、勉強してくれればね。みんな、レベルアップしますね。

○春山委員

今の、家庭教育を進めるにあたって、家庭の様子は、なかなか外からは見えない部分ですね。一番分かっているのは学校かと思います。だけど、その学校で、プライバシーの保護ということと地域で支えようとするのが課題となっています。

さっきありましたけれども、ソーシャルワーカーっていう方がいますよね。そういう方々との連携ができればと思っているんですが。

○市長（議長）

ソーシャルワーカーと行く人と親が、まず信頼関係がなければ、親が預けてくれないよね。でも、がんばって一緒に働いているけれども、こういう点は、支援しますと、そういうアドバイザーを、見つけたり実践できるようにしていく必要がありますよね。

○教育長

実は今年度、臨床心理士を今まで1名だったところを、WISC検査をとれる臨床心理士を雇用できることとなりました。その点では、家庭で困っている保護者にも寄り添える体制ができてきたと思っています。

○高瀬委員

家庭教育が話題になっていますけれども、「三つ子の魂百まで」という言葉があります。家庭教育は、やっぱり母親だと思うんですよね。

小さい時点から子どもの教育、あとは、母親の教育が大事なんじゃないかなと思

うんですよ。ということは、教育委員会だけじゃなく、市長部局では、子育て支援課あたりと連携をもっとすることで違って来るかなと。

○企画財務部長

保育園は子育て支援課が所管です。

○高瀬委員

そんなわけで、子育て支援課あたりとうまく連携して。親の意識を変えていければと思っています。

○企画財務部長

正直いうと、今の社会の中で、若い母親たちが子どもとどれだけ触れ合えるのかを疑問に思っています。

0歳児から保育園に行くわけですね。その保育園がないと都会では大騒ぎになっている。そういう現状の中で、母親と子どもが触れ合える時間って夜でもあるのかなって。どうやって、母親が子どもたちに家庭教育をしていくのかなってというのが常々疑問には感じています。

○春山委員

3世代同居に戻すことは不可能になってきている。そのところを補完するのが、まさに地域の力だと思うんです。地域には、子どものためならちょっとお手伝いしてもいい、何かできることがあればやってもいいと考えている方は、意外というんですよね。

そういう地域が羽生市でもできるのではないかなと、私は思っているんです。ぜひ、シニア世代の生きがいにもなるので、そのところができればいいかなと思います。

○市長（議長）

そのような方向へね、進めていければと思います。

○春山委員

羽生は、今のところ保育所は足りているんですかね。であれば、その中で、なにかしらうまい方法が、ちょっとしたテクニカルなもので、そんなに労力がかからなくて、「ああ！こんなことで」っていうのがあったりするようなものですので、そうやって小さい段階から、そういうのを発信していければ、そこからもう違っていき、10年後20年後になっていく可能性があるかなと思って、今話しを聞いていました。

○市長（議長）

保育所・幼稚園時代からね。幼稚園も保育園もそういう方針でやっていると思うんだけどね。でも、それは、やっぱり意識しないとできないことで。この次、子育て支援課長も出てもらわないとね。

○企画財務部長

そうですね。そこが一緒にやっついていかないと。

先程の意見で、あれなんですけど。市長部局と教育委員会が羽生市は非常にうまく連携が取れている自治体だと思っております。他を見ても自負しているところなんですけれども。さらに、そこにですね、先ほど春山委員がおっしゃったようにですね、「市民」これを、やはりいれていかなければならない。それはやっぱり NPO なり、そういった組織 3 者の連携ですね。それをやっぱり強化する自治体が伸びていくと、痛感しておりますので。ぜひとも頑張ってくださいと思います。

○市長（議長）

アドバイザーの養成講座も必要だね。各地域で。

急に入ってもいろんな配慮をしなければならぬ。これも、なかなか子どもに手がかけられないうちが手を挙げてくれればいいけど。そういう場合は、こっちからそういう方が入っていけるように、民生委員さんなんか協力しなきゃだね。

だから、先ほどコミュニティスクールを話題にしてもらえるように。そうすると、その地域で、なんかのアクションが起こせれば、進めばいい。

○教育長

学校だけじゃなく地域も活性化できるコミュニティスクールだと私も認識しております。

実は、発端は、文科省の方も地域の活性化ということで、学校にコミュニティスクール。学校はなくならないので、コミュニティスクールという形が、発案の中にあつた。そこには民生委員さんの方も入ってくださったりしておりますし、ほんとに地域の有識者の方、そういった方が入っております。ここから、いろんなアイデアがまた具体化される。地域に則した形で具体化されるということです。

私もそういったことで、方向性を導いていきたいと思います。

○市長（議長）

さっき、文化財で伝堀越館って、もう少し詳しく

○生涯学習部長

まずは、ご存知でしょうか？

屋敷林の中にはいろいろな植物が生い茂っておりまして、その所には母屋があるんですが、寄付をしていただいた堀越さんという方が、去年亡くなりまして、その関係で、母屋については近代の建物ということで、まずは母屋の方を取り壊しさせていただきます。それと、付随する納屋について取り壊しさせていただいて、いくつか白い蔵があるんですが、それと門、その辺を残させていただいて、まずは防犯的に周りが、外から見られないとかあつて、ちょっと防犯上の問題もいくつかありますので、まずは母屋と納屋については壊させていただいて、蔵の方は残させていただいて、更地にまずはしてそこで、今後どのように、周りに堀がございまして、その堀について、しっかり後世に残していかなければならないというふうに思

っておりますので、今後どう活用していくかとか、今後どう活用していくか、検討委員会の方を作りまして、皆さんの意見を聞きながら進めて参りたいと思います。それで今、あその場所なんですけど、地域の方が、畑を作って草が生えないよということもありまして、自分たちで畑を耕して、そこで作物を作っていただいて、それをたくさん収穫できると、キヤッセの方で少しなんですけど、販売したりとしておりまして、そういった人たちもおります。少し自分たちで平らにして、グランドゴルフをたのしんでいる方もいますので、まずは地域の方と一緒に守っていただかないと、行政だけで守っていくというよりも地域の方々と一緒に伝堀越館を、どういういい形で保存したらいいかなというところを、相談させていただきながら、今後進めていきたいというふうに考えております。

○春山委員

やっぱり羽生の良さは、緑と水とたくさんの陽の光もあるってことで、そういう良さ、何も無いって言うと、何も無いんですけど、あるっていうと緑であり、農村地帯で、それが、次世代で羽生を背負っていく子どもたちが、羽生の未来に思いをはせられるような。けして都会ではないけれど、豊かな緑あってそういうところで育まれることが、羽生の魅力にもなるので、ぜひお願いしたいなと思います。

先程、平野委員さんがおっしゃったように、子どもたちは自然のなかで、太陽をいっぱい浴びて、すくすくと育つことが、何よりも大事ななと思いますので、ぜひそういう体験を担っていけるといいかなと思います。

それから、家庭教育の中で、読書っていうのは大事ななと思います。ここにも、施策の中にも掲げてあって、ありがたいなと思うんですけども、家庭での読書の習慣っていうのをつけるっていうのが、とてもお金をかけず、すごく大きな効果があると思いますので、重点としているのは大変いいなと思います。

○教育長

読書活動というのは、昨年度、南小学校が研究発表させていただいてビブリオバトルといって、子どもたちが自分の本を他人に紹介してという取り組みを、今度いくつかの学校が取り組んでいくというのを確認取れましたので、これがある意味羽生市の特色ある取り組みの1つになってくる。それを私どもの方も願っておりまして、今度4月23日が読書の日ですので、そこを目指して今後本をどんどん読む子どもたちを育成していきたいと、心強く思っております。

○生涯学習部長

図書館の方には、親子の読み聞かせとか、それと小さい子どもたちに対しても、子育て支援課と連携いたしまして、検診のときに図書館の職員が行って、ブックスタートさせていただいております。それと、生涯学習課の方でも、おうち図書館ということで、おうちの一角に本を置いてもらって、本に親しむ機会を設けてもらうということで、おうち図書館のPR、推進もしたいというふうに思っております。

それと、図書館とスポーツ振興課で去年はタイアップいたしまして、スポーツスクールの子どもの親子の体操があるんですが、その時に、図書館の職員に来ていただいて、運動を始める前に、読み聞かせをやってもらって、ちょっとコラボレーションをしてみました。子どもたちは動きだしてくるんですけども、ちょっとしたところで読み聞かせを、また違った意味で、子どもたちも楽しんでやってもらうことができたと思います。

そういったいろんなところで、読書の推進を担っていきたいなと思います。

(平野委員退室)

○市長（議長）

人権フェスティバルの件は（戦場カメラマン 渡部陽一について）

○生涯学習部長

本人というか秘書を通じでOKはとっておりまして。その案を今後実行委員会等で話をさせていただいて、決定ということにさせていただきます。

○市長（議長）

土曜日の9時からやってる黒柳徹子が出ている「世界ふしぎ発見」に出ている。

○ 委員

オグラケイがね

○春山委員

岩瀬のグローバルタウンっていうのは

○企画財務部長

基本的には、まちづくり部と生涯学習部の方で連携して進めているんですけども、現在開発が進んでいるわけなんですけれども、そういったものも含めて、羽生病院・純真女子短期大学・岩瀬小もありますので、そういったトータルで、グローバルという定義は難しいんですけども、先進的な地域を作ろうということで進めておりまして、今のところ順調にしているわけです。今、ソフトの部分で岩瀬公民館で「ちょこっと英会話講座」ですとか、岩瀬小にALTさんを配置したり、力を入れながら街づくりを進めておりますので、それぞれの部で頑張ってくださいと思いますので、ご協力よろしくお願いします。

○市長（議長）

住友商事さんも世界で活躍する会社なので、そういう点でいろんな提案をいただいております、まち自体の構想もね、

○春山委員

高齢化、少子化で羽生市のこのままでいくとね、2030年ですか、問題もありますけど、そういう中でも生き残っている町もあるわけですね。そういうところで、

羽生市は何があるのかって思ってね。人ではないかなと思っているんですけども。大きくないからこと、そこが弱みではなく強みになって、小回りが利くっていうこともあって、魅力あるね、羽生で育って、羽生市で働いてくれるような、そういう子どもたちを育てたいなって思っているんですけども。

○企画財務部長

岩瀬の区画整理事業自体がですね、約 103h a で全国で類を見ないぐらいの大きさの整理なんです。基本的には全て住居系、いわゆる住宅を貼りつけるという計画で進めてまいりました。ただ、時代とともに、先ほど市長もおっしゃったように大型の商業集積を配置するには、羽生病院の移転も絡みましたので、羽生病院の跡地も有効に活用しながら、ほんとに魅力ある住宅地を形成するというのが一つの目標です。さらに、大型の商業集積、さらにイオンモール。イオンさんも拡張を考えておりますので、そういった意味では、羽生市がこの地域、広い意味での県北地域において、商業の核になれるというふうに考えております。おそらく商圈人口はイオンだけでも 60 万人といわれておりますので、おそらく 100 万人くらいの商圈人口になるかなと、我々思っております、これは近隣いつでもですね、加須も行田も皆さんが注目しております、やはり「羽生が全部商業をもって行っちゃう」というような嫌味を言われるますので。これについては、河田市長がリーダーシップをとりながら進めておりますので、やはりそういった意味で魅力のある地域、これを作り出すということを優先して考えておりますので、よろしくお願ひしたいと思います。

○教育長

グローバルタウンって名のもとに、岩瀬小学校は ALT の配置をしていただいて、文部科学省の指定を受けて研究をしたり、特別に小学生で英語のテストを特別にさせていただいております。また、そういった事業をやっているからには評価ってことで、しっかり資格をとり、将来的には岩瀬小で **中学校入った時に英検 3 級**はみんなとるっていうくらいに持っていきたいと考えております。

「あの地域はやっぱりグローバルタウンだな」って子どもの姿からも言ってもらえるようにしたいなと思っております。

村君小も同じように思っております。

○学校教育部長

もう少し足しますと、4 技能テストというのが今度大学入試改革によって始まります。「読む・書く・聞く・話す」この 4 技能ですね。この 4 技能を図るために、タブレット端末型のパソコンを使って、しゃべれる・聞けるようにした環境で、テストを受けるのを実際に昨年度から岩瀬小と村君小が実施して、今それを検証しているところです。おそらく、そういう経験は、今後生きていくと思いますし、また、その 4 技能を育もうとする新しい形の英語教育というんですかね。小学校って

いうのは、今まで体験型で楽しくってだけだったんですけれども、そうじゃない教育も生まれてくるのかなというふうに考えております。

○春山委員

子育ての世代が、移り住んで、希望を持って羽生市に来た方たちがたくさんいると思うんですけれども、若い方たちが羽生に来てよかったなって思えるような新しいまちづくりが、魅力あるものになっていければなと思います。よろしく願います。

○市長（議長）

羽生を選んでいただかないとね。

○柿沼委員

今、ALT の話が出たんですけれども、特定されている小学校中学校だけでなく、いろんな学校にですね常駐して、常日頃からできればですね、子どもたちも豊かになっていくと思います。

タブレットや DVD など、いろいろとお金がかかることかもしれませんが、子どもを育てるのが財政的に保障される市政でないといけないと思いますので、そういうところで支援していただきたいなと思います。

○市長（議長）

羽生はね、県内でも早くから取り入れて、教育長が言われることになるべく予算付けを企画財務部長もしてくれてね。

○企画財務部長

羽生市は本当に教育に関しては、他の市に先んじてやってきておりますので。エアコンの議論は皆さん御承知の上でございますけれども、そのときも市長は信念もって「これこれこうだから必要なんだ」と議会でも申されております。やはり、そういう姿勢ですね。そういったところでやはり教育というものを、ひとつの柱に掲げてですね、できるかぎり支援していきたいと思っておりますので。

○教育長

エアコン入れていただいたので、耐震工事も素早くみんな 100%になっているんですね。ほんとにありがたいことだと思っております。

○市長（議長）

タブレットも早かったよ。将来はどこも入れなくちゃなくなるから、だったら早い方がいい。

エアコンだってもう国の補助ないもんね。羽生がやったころは国の補助をいただいた。早いところは、そういうふうだね。

○企画財務部長

大事なものは、羽生は教育に力を入れているという風評ですから。最近、テレビでマスコミで取り上げられますのが、浦和が関東でもトップレベルの

住みたい町にね、選ばれている。その要因の1つが高度な教育ということが言われていますよね。

今回、埼玉大付属小と連携ととっていただきましたけれども、やっぱりあそこなんだと思います。そこに、魅力を感じて、若い世代は移り住むと。やはり、そういう場所に岩瀬をしたいということですね。

○市長（議長）

さいたま市はね、英語教育は日本でもトップで。埼玉県平均よりさいたま市はグーッと離されている。

羽生も英語でレベルが高いっていわれるように。今、住んでいる人も、これから来たいって言う人も。

○教育長

羽生市もほんとに、おかげさまで着実に向上しているっていうところが埼玉県からも認められて、12日の夕方18時からNHK埼玉のFM日刊埼玉ズに羽生北小の校長先生が出演して、取り組みを紹介したり、3月中にNHKのテレビが取材に入って羽生市の頑張った取り組みを取材に来て、4月には全国放送になるか埼玉放送になるかわからないですけど、羽生市のがんばりを紹介するっていうのが放映されるので。おかげさまで、ここ1、2年頑張ってくれているのが、他のところからも評価されている、すべてがすべてではないですけども、1校でも1人でも子どもが、のびたっていうのは、とても喜びに感じますので、ご紹介させていただきます。

○市長（議長）

今回の私のマニフェストで、外国人にやさしいまちっていうことはみんな英語ができなきゃいけないし、これから日本人をみんなが集めるのは無理なんです。だから、外国人をいろいろな形で来ていただいて、全国の羽生だったら外国人に配慮してくれるっていうそういうまちづくりを、グローバルタウン構想でもあるんですけども、そういうまちにしないと。外国の人を増やして、子育て、雇用、特に雇用はね、会社は大変なんです。第一高校も就職した人がひとり、日本精工へ入った。あとは、専門学校。羽実もね、200人ぐらいいるんかね。求人倍率が4倍。ひとりに対して4社。だから、高校生も引っ張りだこで、なかなか市内、住友化学さんも2人入るって言ったかな。高校生が市内。だから、なかなか市内にとどまっていただけない。ということは、やはり、小中学生、高校生、大学も羽生へ住まないんです。みんな、外へ出て行っちゃう。いい仕事がたくさんあるから。通ってくればいいんですけどね。となれば、やはり外国人をマナーもしっかり守ってもらって、日本人とうまくやっていただけるように。そういう受入体制をしなくちゃならない。というふうに思ってますけど。岩瀬の人にも、これから外国人もたくさん増えますよって、仲良くやったださいって、さくらまつりで話しをした

んですけどね。だから、今までと同じように、取り合ってたってだめなんで。それだったら、ほんとに今年も、邑楽町（大泉町）に言ってブラジル人とどう関わっているのか見てこようと思って。教育委員会も一緒に行ってもらえればありがたい。身近に、そういううまくやっているまちがあるんだから。

よろしいですか。

はい、大変今日は有意義な会議になりました。いろいろご意見いただいて、ありがとうございました。

これで、わたしの議長をこれで終わらせていただきます。

(閉会)

○企画財務部長

市長ありがとうございました。

これにて、本日の協議事項はすべて終了いたしました。閉会にあたりまして秋本教育長よりごあいさつをいただきたいと思います。

○教育長

(閉会のあいさつ)